

設立主旨である生徒の多様なライフスタイルに対応できるセーフティネットとしての学校の役割と令和4年度からのスクールミッションを果たすため、以下の学校経営計画を策定する。

I 目指す学校

《スクールミッション》

学校外の学修の単位認定や地域と連携した行事へ参加するなどの特色ある教育活動を通じて、生きる力を育むために必要な基礎学力の確実な定着と自らの個性・適性の伸長をし、急激に変化し続ける社会に対応するために生涯を通じて学び続け多様な人々と協働する社会人を育成します。

《ポリシー》

1) グラデュエーション・ポリシー

- ① 基礎的・基本的な学力を身に付け、互いのよさを生かして多様な人々と協働できる。
- ② 社会的・職業的に自立し、多様な生徒との学びを生かし豊かな人間関係を築ける。
- ③ 急激に変化し続ける時代に対応する為に生涯を通じて学び続け、社会及び地域コミュニティに貢献しようとする。

2) カリキュラム・ポリシー

- ① 基礎的・基本的な学力の定着を目指し、多様な生徒が互いを認め合うAL型学習を推進する。
- ② 個性・適性の伸長を図りながら自己理解を深め、多様な進路希望に対応した教育課程を編成する。
- ③ 地域の教育資源や産業特性を取り入れ、社会貢献の意識を醸成する教育活動を展開する。

3) アドミッション・ポリシー

- ① 基礎的・基本的な内容をしっかり学び、自分と他者を大切にクラスや行事で協力できる。
- ② ルールやマナーを守りながら個性を伸ばし、自らのキャリアプランを描くことができる。
- ③ 自らが社会に役立つことを意識し、さらなる学力の向上を目指し学び続けようとする。

II 中期的目標と方策

社会の急速な変化及び生徒のライフスタイルの多様化、生徒・保護者の価値観の多様化に対応しつつ、スクールミッションを達成するために、根拠に基づいたカリキュラム・マネジメントを各教科・各分掌・各委員会で適正に行うことで、急速に変化する社会から生徒に求められる学力の3要素を確実に身に付けられるようにするために、以下の目標と方策を策定する。

【目標】 グラデュエーション・ポリシーを達成する。

【方策】

1) カリキュラム・マネジメント実施による組織的な指導の展開をする。

- ア) 定期考査採点・分析システム活用し、基礎的知識・技能を獲得させる。
- イ) AL型授業実践による協働意識を涵養する。
- ウ) スモールステップで自己肯定感を醸成する。
- エ) 学び直しにより、自ら意欲をもって取り組むことができるように指導する。
- オ) office365等ICTを活用した振り返りにより主体性を育む。

2) キャリア教育を初年次から計画的組織的に展開し、進路実現に向けた支援を行う。

- ア) 教科「総合的な探究の時間」や「人間と社会」により、人間関係構築能力、将来設計能力及び自己実現能力を育成する。
- イ) キャリア教育の全体計画を、適正な職業観・就業観をもたせる2年次までの前期と、進路活動を実践する後期とに分け、入学時から卒業時まで一貫したキャリア教育を行う。
- ウ) 事態に合わせたキャリアガイダンスを実施し、正確な進路情報を提供して生徒の進路実現を支援する。
- エ) 外部関係機関や人材を活用したキャリアカウンセリングを推進する。
- オ) 進路指導部が主導して学年の協力体制の下、組織的な進路指導を推進し、生徒が当事者意識をもって自発的な進路活動を行うことができるように支援する。

3) 地域コミュニティとの連携や特別活動を推進し、他者と協働する重要性の理解を深める。

- ア) 上記視点で特別活動を改善する。
- イ) 生徒会活動、委員会活動の自主的な運営と三部の協働・協調を推進する。

- ウ)外部機関の主催する行事や大会への参加を奨励する。
- エ)異年齢集団との交流を重視し、社会貢献する喜びを感じる活動を充実する。
- オ)避難訓練や地域と連携した防災教育・清掃活動等の充実を図るとともに、地域貢献する精神を養う。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

[学習指導]

〈目標〉学力の3要素をバランスよく伸ばす。

(ア)知識・技能 (イ)思考・判断・表現 (ウ)学びに向かう力

〈方策〉

- ①学習指導要領に基づいた重点課題・取り組み・発展的取り組みの策定、公表・活用を行う。
- ②教科・科目ルーブリックの点検、改善、公表、活用を行う。
- ③単元ルーブリック、授業ごとルーブリックの策定・公表・活用を行う
- ④目標達成のために現在求められている具体的手立ての工夫・共有・実践を行う。
- ⑤生徒が主役となる授業展開・方法の工夫・共有・実践を行う。
- ⑥学力の3要素の「伸び」または「定着」を測る方法の工夫・共有・実践と分析を行う。
- ⑦一人一台端末の活用を実践する。
- ⑧学ぶ方法の3つの要素(主体的・対話的で深い学び)についての共通理解・共有・実践をする。
(主体的とは? 対話的とは? 深い学びとは?)
- ⑨日本語指導における特別の教育課程を編成し、実施する。
- ⑩生徒が適切、建設的な質問・発問ができる授業展開を行う。

[進路指導]

〈目標〉

(ア)進路意識の段階的向上

(イ)卒業時の進路実現(入りたい上級学校、入りたい企業)と進路未定での卒業生ゼロ

(ウ)退学者の減少(進路未定のままでの進路変更者ゼロ)

〈方策〉

- ①年次ごとのキャリアプランを進路指導部と年次で策定・共有・公表・活用する。
- ②年4回の面接週間を計画的に活用し、生徒自身が個別のキャリアプランを策定する。
- ③進路意識調査を計画的(4月、9月、1月)に実施し、進路意識を向上させる。
また、方策①②へ効果的に反映させることで、年次進行に伴い、進路を具体化させる。
- ④キャリアパスポートを活用する。
- ⑤進学指導体制を構築する。
- ⑥自立支援チームを活用する。
- ⑦多様な進路に対応するための教職員向け研修を計画的実施する。
- ⑧読書活動を推進して読書量を増やし、見分を広める。

[生活指導]

〈目標〉社会生活で自立できるための基礎であるア～ウの習得

(ア)人権意識 (イ)社会規範 (ウ)基本的社会習慣

〈方策〉

- ①生徒指導提要に基づき、生徒指導と教育相談の一体となったチーム支援を行う。
- ②教員一人一人が言動で範を示し、生徒とともに課題解決を図る。
- ③1年次より進路指導と結び付けた生活習慣指導を行い、TPOに応じて対応する力を養う。
- ④特別な支援を必要とする生徒との相互理解を、HR、教科指導、特別活動、生徒研修等すべての機会を活用して教職員全員が工夫して行う。
- ⑤多文化共生の精神を上記④同様に行う。
- ⑥グループエンカウンター事業やセーフティ教室等を通してソーシャルスキルや危機回避能力を育む。

[特別活動・部活動]

〈目標〉

(ア)協働の意義の理解、協働の仕方の習得

(イ)集団の課題の発見、合意形成する力の習得

(ウ)主体的に集団や社会に参画する力の育成

〈方策〉

- ①HR活動、生徒会活動、委員会活動、部活動等の運営等を生徒自身が目標を立て、自発的、自主的に実施できるように教員が支援する。特に参加者増とリーダーとなれる力を個に応じた伸ばす方法を工夫する。
- ②儀式的行事では、厳粛かつ清新に気分を味わえるように、生徒の意識を育て、環境を整える。
- ③文化的行事、健康安全・体育的行事では、その目的、目標を明確に示し、意識させる。
- ④旅行的行事では、見分を広め、よりよい人間関係を築かせ、また、社会的規範を深める工夫を行う。
- ⑤勤労生産・奉仕的活動では、地域と連携した活動を活用する。また、新規事業を開拓する。
- ⑥実践的、実地的な防災訓練を行う。

[健康づくり]

<目標>生徒自身が主体的に心身の健康を管理できる資質・能力の育成

<方策>

- ①年4回の面接週間と日常の生徒観察により早期に悩みを発見する。
- ②自立支援チーム(学校医等外部機関連携を含む)やSCと協働することで、様々な課題に適宜適切に対応する。
- ③健康づくりに関する生徒向け研修を計画的に実施する。
- ④様々な健康的課題に対応できる力を身に付けるための教職員研修を実施する。
- ⑤感染症対策を徹底する。
- ⑥喫食率を上げて食育に資する。
- ⑦継続的なフードパントリー実施に向けての体制を作り、食育に資する。
- ⑧都立学校版コンディションレポートを研究・活用し、要支援者の早期発見をする。

[募集・広報活動(地域交流等)]

<目標>

(ア)本校の教育活動の魅力の紹介 (イ)応募倍率の上昇

<方策>

- ①学校見学を積極的に受け入れ、個別対応で相談にのる。
- ②外部説明会へ幅広く参加する。
- ③HPで三部制の教育活動の特徴及び魅力を積極的に発信する。
- ④学校案内を刷新し、都内中学校をはじめ、適応指導教室、夜間中学、保護司会等、幅広く情報提供を行う。
- ⑤教育関係者向けの説明会を通信制と共同で実施する。
- ⑥校内外の掲示物をユニバーサル・デザインの視点で充実させ、教育活動を来校者に分かりやすく紹介する。
- ⑦授業公開や公開講座により、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- ⑧地域行事への参加を通して地域との共生や相互理解をさらに進める。

[学校経営・組織体制]

<目標>

(ア)働き方改革の推進 (イ)生徒の伸長を目指した教育活動の組織化・活性化

<方策>

- ①教職員一人ひとりが課題を発見し、その改善策・改革案を提案、実践する。
- ②職層及び教職経験を活かしてOJTを各自が計画的に実施する。
- ③各校内組織がマネジメントサイクルを行う。
- ④各教科がカリキュラム・マネジメントを適切に行い、指導と評価の一体化を行う。
- ⑤国際理解・多文化共生教育、多様な生徒へのインクルーシブ教育を、外部人材を活用して行う。
- ⑥都のコンプライアンス方針に基づき業務遂行をする。
- ⑦特別な教育課程(通級、日本語指導)の適正な編成・実施・管理をする。
- ⑧学校行事の配置等を工夫、見直しを行い、授業時間の確保をする。
- ⑨HR経営で担任と副担任が協働する。
- ⑩不登校対策(校内別室指導推進事業)を推進する。(健康づくりとしての生徒の心身の成長支援を含む)
- ⑪教育系と行政系が積極的に情報交換をし、連携する。

(2) 重点目標と方策

令和5年度 重点目標	具体的目標値		主な方策	(目安)	成果
① 学習意欲の 継続、学力 定着への支 援	学力スタンダードの推進 基礎学力が身に付く授業 学校評価 肯定的評価 (80)%⇒ % (前年度実績73.3%)		ICT機器(OFFICE365機能)を活用した授業者	(95)%	
			AL型授業の拡大 話し合いや意見を言うことが増える 学校評価	(75)%	
			相互授業参観	参観・被参観 一人各2回以上	
			興味関心を喚起する授業による未履修者の減少 在籍者に占める未履修がある者の割合	(30)%以下	
	1年次生、2年次生の標 準単位以上修得者率 対5/1在籍 (76)⇒ % (前年度実績71%) 1年次19単位以上 2年次38単位以上		三者面談による家庭学習環境の改善	学期に1回以上	
			基本的な生活習慣の確立・授業規律の遵守 学校評価	生活習慣(84)%	
			呼び出し補習による学力の補完	全教科	
		資格(英検・漢検・簿記等)取得の奨励 合格者数	延(25)人		
		学則による退学者の減少	(0)人		
② 進路希望実 現への支援	進路決定率 (85)%⇒ % (前年度実績84.5%)		進路用講習・補習の開講	(30)講座	
			進路の手引きを活用するHRの実施	(10)回	
			就職特別講座受講者の増加	延(350)人	
			進路目標別履修指導の展開	10月実施	
	進路目標決定状況 2年次末 (85)%⇒ % (前年度実績79%)		進路情報等の掲示・案内	(週3回以上)	
			進路分野別ガイダンスの実施	年(5)回	
		進路面談の実施(三者、二者)	学期に1回以上		
③ 主体的自律 的な学校生 活の推進と 安全で安心 な学習環境 の維持	出席率年間平均 (86)%⇒ % (前年度実績80.1%)		学習状況の面談(二者、三者)	学期に1回以上	
			保護者会を通じた状況報告	(1)回以上	
	学校生活の充実 学校評価 肯定的評価 (82)%⇒ % (前年度実績81.2%)		行事(文化祭・体育祭) 参加状況	(82)%	
			部活動の活性化 加入率 活動実績(運動部全国出場、都定通芸術祭1位)	(40)%	
			委員会活動の活性化(文化祭や日常での展示報告)	学期1回	
	防災意識の向上 訓練参加率(80)%⇒ % (前年度実績73%)		外部と連携した防災訓練(講話・避難訓練)の実施	(4)回	
			防災教育の成果発表 文化祭での報告	1回以上	
	健全育 成指導 状況	体罰 0 いじめ 0 学校事故 0	健全育成講演会(セーフティ教室等)	(3)回	
			研修会(いじめ、体罰、健全育成、特別支援教育)	(12)回	
			教育相談委員会の活性化 月例会	(12)回	
校内外巡回 定期実施			月に1度以上		
地域行事への参加(生徒・教職員)			生徒120名		
④ 広報活動の 積極的・組 織的な展開	説明会参加 (500)組⇒ 組 (前年度実績488組)		資料を改善した説明会等の校内実施	(15)回以上	
			外部説明会への参加	(14)回以上	
			中学校・関係機関への広報(郵送・FAX等を含む)	(460)ヶ所 &開拓	
			教育活動のHPでの紹介 更新回数	(70)回	
⑤ 適正で効果 的な学校運 営	マネジメントサイクル に基づく学校運営		適正な予算執行と効果的な予算編成	執行・編成	
			学年会、分掌部会との情報の共有	毎週	
			学年目標、分掌目標の設定と実施評価	4月、2月	
			学校運営連絡協議会へのPDCAに基づく報告	(3)回	